

津軽広域観光でHP

来春開設 提供情報も受け付け

弘前市など津軽地方十一広域観光圏協議会(会長 四市町村と各観光協会、相馬編一弘前市長)は、交通業者で組織する津軽二日、弘前市立観光館で

通関総会を開き、来年四月から広域観光情報発信ホームページ(仮称)を開設・運営することを決めた。津軽地方広域の観光ホームページは初めての試み。

二〇一〇年の東北新幹線新青森駅開業による津軽地方へのさらなる誘客を目指す。〇五、〇六の両年度に弘前大学地域共同研究センターと共同研究した成果を生かしてつくられる。

ホームページには、共同研究を基にしたさまざまな観光コースが設定され、目的や地域、分野から検索することが可能。ユーザーからの情報提供を受けられるほか、データベースには津軽広域の情報も蓄積され、観光データベースとして活用できる。今後、情報の収集を行い、十二月にはサイトを仮オープンする。一月三月の試験期間を経て来年四月から本格稼働する。

津軽広域観光のHPを来春開設

新幹線開業にのみ

津軽広域観光圏協議会(会長・相馬編一弘前市長)は二〇一〇年度の東北新幹線新青森駅開業をにらんだ新たな誘客策と

して、〇八年四月に同協議会加盟の十四市町村の「景観・歴史・文化」をテーマとした「秘境・コース」を紹介する新たなホームページを開設することになった。弘前市立観光館で二日開いた総会で、正式決定した。

同協議会は〇五、〇六年度の二年度で、弘前大学地域共同研究センターとともに観光客の年齢層や目的に応じた津軽地域

の観光プランを研究。「津軽のお宝を巡り」「写真撮影スポット」「秘境・秘湯探索」など、観光客の具体的なニーズを把握した提案型の広域観光コースをPRする。全国に発信するため新たに「広域観光情報発信ホームページ(仮称)」を開設、将来的に津軽観光のデータベースとしての活用も視野に入れる。

総会で、相馬会長は「新幹線効果も最大限に生かすためには、津軽地域が有機的に結び付いた取り組みが必要」と連携強化の必要性を強調。同協議会の事務局を務める弘前市観光物産課は、会員市町村や団体とホームページの掲載内容を詰め、今年十二月に試験運用を行う方針を示した。